

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 8 回 相模原市簡易水道事業審議会				
事務局 (担当課)		津久井土木事務所 電話 0 4 2 - 7 8 0 - 8 2 1 0 (直通)				
開催日時		令和 4 年 3 月 1 6 日 (水) 午後 3 時 0 0 分 ~ 4 時 5 0 分				
開催場所		緑区合同庁舎 集団指導室				
出席者	委員	7 人 (別紙のとおり)				
	その他					
	事務局	6 人 (道路部長、津久井土木事務所長、他 4 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 答申書 (令和 3 年度審議分)(案) について (2) 令和 2 年度答申事項の進捗状況について 3 その他 4 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 議 題

(1) 答申書 (令和 3 年度審議分)(案) について

事務局より資料について説明を行った。

事務局からの説明に対する主な意見等は次のとおり。

相模原市は山梨、東京及び神奈川の事業者と隣接している。近隣水道事業者との連携については具体的に連携する事業者の見通しがあるのか。(笹原委員)

規模が大きいところでは、市において給水人口比で 99% 以上を給水している県営水道が挙げられ、簡易水道事業のマッピングシステムについては県営水道のシステムに合わせて導入を進めている。また、「県央地域における水道事業の広域化等に関する検討会」の構成員である、秦野市、座間市、愛川町及び清川村などについても、技術に関する情報交換を行っていきたいと考えている。(事務局)

先日、神奈川県において、「水道事業広域連携調整会議」の幹事会を開催し、各圏域の検討状況を共有したところで、検討会を活用するというような答申のまとめ方はこれまでの審議会の議論を踏まえているものだと思う。(渡邊委員)

共同化業務の検討については、前回の資料では「棚卸し」という言葉があったが、「分析する」という表現に直っている。(荒井会長)

共同化業務の検討については水質検査などが考えられるが、今想定されるものがあれば教えていただきたい。(笹原委員)

神奈川県において、水道メーターの一括購入やシステムの共同化が有効かどうかシミュレーションをして検討を進めているところである。(事務局)

検討会においては、水道メーターの共同購入や管路台帳システムの共同化などについて、削減効果が見込まれるか意見交換などを行いながら検討を進めていくところである。(渡邊委員)

民間企業との連携については、前回の審議会では、コストの削減の効果がメインで挙げられていたと思うが、答申書においては、業務の効率化がサービスの向上に繋がるということが第一で、副次的にコストの削減になるという趣旨に改められている。ICT技術の導入の検討については、項目として挙げずに、近隣事業者の連携による技術力向上の検討の項目にも含まれていると理解している。また、各項目については、優先順位の高いものから並び替えられている。(荒井会長)

水道版ハザードマップなど、答申書の内容は具体的な表現になっている。これは津久井地域の置かれた実態を踏まえたものであり、非常に良いと思う。私が関わっている津久井建設業協会では治水センターなどと災害協定を結んでいるが、令和元年度東日本台風の際に一番困ったのは、土砂崩れで現地に行くことすらできないことだった。この答申書の内容については、すぐに取り組んでもらいたいという希望を持っている。(関戸委員)

水道版ハザードマップができれば、それぞれリスクが確認できるようになると考えている。(荒井会長)

被災時において、各施設までの経路も踏まえた内容としていただきたい。(関戸委員)

答申書の水道版ハザードマップの作成について、「被災時の対応方法の検討や非常時対応の強化に繋げる」という表現があり、関戸委員が指摘する意味を含んでいると思う。また、水道版タイムラインについても、その対応の強化に関する取組だと考えている。(荒井会長)

業務継続計画の改訂のスケジュールはどうなっているのか。(荒井会長)

答申をいただき、来年度に改定作業を行う。来年度の審議会において案をお見せし、意見を頂戴したいと考えている。(事務局)

答申の成果に期待したいところである。(荒井会長)

地域住民からすると、広域化や維持管理の取組で水道事業が安定的に保たれることは重要だが、被災時にいかに生活が脅かされないかということが一番不安に感じていることだと思う。水道版ハザードマップやタイムラインというものを作成し、いかに共有できるかに期待したい。(鈴木委員)

簡易水道事業の施設が被災した場合は市が応急給水対応を行うと思うが、小規模水道組合の場合は対象外となるのか。(関戸委員)

災害時に相談する窓口としては緑区役所になる。(事務局)

この審議会で議論することではないかもしれないが、集落配水の小規模水道組合は津久井地域に点在している。小規模水道組合を計画で抱き込むことは難しいのか。災害時には簡易水道事業者が現場対応でやらざるを得ないものも出てくると思う。(関戸委員)

市民の命や財産を守るというような観点になり、地域防災計画や区の防災のあり方の中で対応することだと考えている。地域密着の所管部署となると、区役所のそれぞれの地域のまちづくりセンターにはなる。(事務局)

青根地域の同じ自治会には、道志川の対岸の小規模水道組合の住民も含まれている。簡易水道に入りたいものの、整備が必要で簡易水道に入れない状況である。これは大きな課題だと思う。(関戸委員)

業務継続計画は給水区域以外の区民や関係部署も参考資料とするという意味合いもあると思っていたが、簡易水道ではなく小規模水道だから施設をマップに載せないのか。災害時に水道に関わるリスクを把握する計画を目指すのなら、小規模水道の内容も含めた内容にはならないのか。(荒井会長)

できるかは分からないが、そうした内容を落とし込んだ計画に作っていただきたいと思う。(関戸委員)

小規模水道の対応も踏まえた計画が一番良いと思うものの、まずはこれから簡易水道事業者として簡易水道の給水区域における計画を作成するところである。また、昨年度の答申の中でも、安定的な事業の継続のために、料金改定を行い、使用者の皆様には一定の負担をいただくところで、業務の継続という観点もその負担の対価にも当たるものだと考えている。まずは、計画

が出来上がった段階で、市の内部などでも周知をするとともに、小規模水道の方にも準用できるのかというのは、将来的に整理させていただきたい。(事務局)

答申書における文章において、「被災時の対応方法の検討や非常時対応の強化に繋げる」というニュアンスは今、事務局が説明した趣旨に関することだと理解した。計画を作って終わりではなく、関係方面へ展開して地域の防災の強化に繋げる意味も含まれているのだと思った。(荒井会長)

答申書について特に修正の意見はなかったので、事務局と私で調整し、改めて各委員へ送付し確認することで決めるということによろしいか。(荒井会長)

本日、特に修正意見はなかったので、欠席の委員も含めて再度皆様にお送りし、確認していただいた上で、答申書を確定とする。(事務局)

(2) 令和2年度答申事項の進捗状況について

事務局より資料について説明を行った。

事務局からの説明に対する主な意見等は次のとおり。

昨年度に審議会で答申したものについて、進んだものと現在進行形のものと様々だが、施設運用の変更による維持管理の効率化によって電気料金の削減につながったのは良かったと思う。使用料の改定については、漏水解消に向けて個別調査を行い、現時点では39件の使用者が対象となっているということだった。(荒井会長)

12月から1月にかけて、約60件の使用者を対象として戸別訪問調査を実施して39件まで絞り込んだところである。今後、地域に修繕に向けた説明を行うところである。漏水の対象者の中には大量に漏水している事業者もいる。(事務局)

市の担当者が個別訪問を行い、多くのところで協力をいただき実施できたと伺っている。漏水の怖いところは、地下で漏水していると地盤の崩落や陥没に繋がることであると思う。まだ残っている使用者についても、対応を継続して、将来的に漏水問題が解消されれば、本当に必要な水量が分かってくる。担当部署には感謝している。(関戸委員)

大口使用者の方々は定額制から従量制になることに対して、理解や納得は得られそうなのか。(笹原委員)

青根地区の温泉施設の敷地の中に、旧建設省が宮ヶ瀬ダムのだ志導水路を作った時に農業用水の補償として掘った井戸がある。物理的には貯水タンクがあれば、この井戸で十分に賄えると思う。また、他の老人ホームについては、道志ダムの横にあるため、井戸を掘れば伏流水がある立地条件だと考えられる。あとはキャンプ場などもあるが、設備投資をして井戸を掘るか、従量制に従って使用料金を負担するかはそれぞれの判断になるのではないかと思う。従量制への移行という話になると、宮ヶ瀬ダム建設時の補償に関することなので、地域の方もかなり反応がある。(関戸委員)

昨年度の審議事項において、収入の確保のための料金改定があった。笹原委員からも発言があったが、大口使用者への対応が引き続き大きな課題になるのかと思う。(荒井会長)

まずは漏水調査に力を入れ完了したところで、次に大口使用者の方にヒアリングや意見交換を行いながら、どのくらいの準備期間が必要かなど、激変緩和措置のあり方を検討していきたい。(事務局)

引き続き、よろしくお願ひしたい。(荒井会長)

3 その他

4 閉 会

以 上

相模原市簡易水道事業審議会（第8回）委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 康裕	東京都立大学都市環境学部 准教授	会長	出席
2	笹原 俊一	公益社団法人日本水道協会調査部調査課 労働係長		出席
3	鈴木 諒太	公募市民		出席
4	関戸 正文	相模原市青根水道委員会 委員		出席
5	松原 沙織	東海大学政治経済学部 教授	副会長	欠席
6	丸山 博司	相模原市藤野地区自治会連合会 監事		欠席
7	渡邊 素広	神奈川県健康医療局生活衛生部生活衛生課 副課長		出席